

イスラエルはガザのジェノサイドを止めよ 政府はパレスチナを直ちに国家承認せよ

■常軌を逸したイスラエル政府

イスラエルのネタニヤフ政権は国際法や人道主義を投げ捨て、暴虐の限りを尽くしています。パレスチナ・ガザ地区の飢餓、人道状況は極めて深刻です。痩せ細った子どもらが食料を待っています。世界がこれを黙って見過ごすことは許されません。また、ヨルダン川西岸では強圧的、略奪的な入植活動を拡大しています。さらに、数日前には国際法を完全に無視してカタールのドバイに空爆を行い、多くの犠牲者を出しています。

今、イスラエルのネタニヤフ政権の蛮行に対して、国際的に抗議と糾弾の声が高まり、大きなうねりとなって広がっています。イスラエル国内でもその動きは活発化しています。

そうした中で「われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」と謳う日本国憲法のもとに暮らす私たち日本国民はこうした蛮行に目を閉ざすべきではありません。

今こそ世界の抗議の運動に連帯し、イスラエルのネタニヤフ政権の蛮行に抗議の声を上げ、その停止を求めましょう。

■パレスチナ国家承認を先延ばしする日本政府

今、パレスチナ国家承認の動きが加速しています。主要7カ国（G7）ではフランスに続きイギリス、カナダが9月の国連総会やその前に国家承認する意思を示しました。

一刻も早くまともな食料援助を再開させることは国際社会の最低限の責任です。イスラエルに圧力をかけ、無法を止めるためにも、パレスチナ国家の承認は急務です。日本も直ちに踏み出すべきです。

自民党総裁選のゴタゴタで先延ばしすべきではありません。イスラエルのネタニヤフ政権を擁護・軍事支援する米・トランプ政権の顔色をうかがうのではなく、日本は独自の判断で一刻も早く承認を行うべきです。同時に、国際社会と連携しイスラエルへの制裁など同国の戦争犯罪をやめさせる実効ある措置をとり、米国にも強く求めるべきです。

長野県革新懇（日本と信州の明日をひらく県民懇話会）

長野県 AALA（長野県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会）

連絡先 長野市県町 593

tel：090-1129-6094